



2021年9月20日発行



今回の紙面から（内容とページ）

会長就任にあたって	1
第39回大会のお知らせ	2
第15回国際春季フォーラムのご案内	3
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	7
学会賞委員会より	7
日本英語学会2020年度会計報告	8
日本英語学会2021年度予算計画	9
言語系学会連合について	11
事務局より	11

会長就任にあたって

会長 金子 義明

今年4月より、会長を務めることになりました。新制度により、昨年度は会長見習い期間として、廣瀬幸生前会長のもとで副会長を務めました。副会長時代には会長宛のメールをCc.で送っていただき、会長職務の一端を垣間見ることができたのですが、実際に会長職を引き継いでみると、見習いで見ていたのとは大違いでとまどうことも多々あり、まだまだ試運転の状態です。廣瀬前会長には、今年度は副会長として支えていただいております。

実質的な業務を行う事務局も交代いたしました。事務局長には同僚の島越郎氏に引き受けていただき、新事務局を編成し、3月には前事務局との引き

継ぎを行いました。実は、昨年4月に副会長職をスタートした時点で、現事務局メンバーには次期事務局メンバーとして、私と同様に見習い期間に入ってもらいました。これは廣瀬幸生前会長および和田尚明前事務局長のご配慮によるものであり、今後も継承していきたいと考えております。

さて、皆様ご存じのように、全世界が新型コロナウイルス感染症パンデミックのまっただ中にあり、日本もその例外ではなく、現在も変異株であるデルタ株が猛威を振るっております。多くの会員の皆様も、昨年度当初から授業形態の急な変更への対応に追われたことと思います。日本英語学会も渦中から逃れることはできず、昨年の春期国際フォーラム（SF13）は中止を余儀なくされました。開催準備にあたった関係者にとって痛恨の極みであったと思います。秋の第38回大会はその経験を踏まえてZoomによるオンライン形式で開催することになり、大会運営委員、開催校委員、および前事務局メンバーの奮闘により無事に開催することができました。これらの経緯については廣瀬前会長のNews Letter 73と74をご覧ください。

私が会長を引き継いでから最初の春期フォーラムであるSF14もオンラインで開催されました。前年度SF13の開催校であった関西大学の皆様にはSF14の開催校をお引き受けいただきました。現地開催は再びかなわぬ事となりましたが、運営上の様々な局面でご尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。すでに学会ホームページに掲載されておりますように、今年度の第39回大会と来年度のSF15もオンラインで開催されます。現地開催に比べて制約される面もありますが、オンライン開催による利点も少なくありません。会員の皆様にはふるってご参加いただきますようお願いいたします。2022年度の第40回大会は東京外国語大学府中キャンパスで開催予定ですが、開催形態につきましては、確実な開催と参加者の皆様の安

全を最大限に考慮して検討してまいります。なお、第40回大会につきましては、現地開催を目指しておりますが、現時点では新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから、現地開催の再開を最優先とし、記念大会としての開催は断念することとなりました。

新事務局の当面の課題としましては、まず年次大会およびSFの開催と、学会誌の着実な発行により会員の皆様に研究発表の場を確実に提供することと考えております。加えて、廣瀬前会長のもとで策定されました2つの改革案を可能なものから順次実現していくことが課題となります。その一つは、学会誌*English Linguistics*の発行を、年2回から年1回に改めることです。これについては既に学会ホームページの新着情報に掲載されておりますように、2023年度刊行の第40巻から年1号発行となります。この経緯につきましてはホームページの該当欄をご覧ください。もう一つは、学会業務のオンライン化の推進です。これには、①事務局の業務に関する会員管理などのオンライン化、②大会運営委員会に関わる研究発表等の応募・採択のプロセスのオンライン化、③編集委員会に関わるEL論文の投稿・採択のプロセスのオンライン化が含まれます。学会誌*English Linguistics*につきましては、第40巻からの年1号化にあわせて投稿方法のオンライン化の導入も予定されておりますので、ホームページの新着情報欄の該当箇所をご覧ください。これらのオンライン化の導入は、事務局メンバーや各種委員会委員の負担軽減、学会運営上の経費削減、国際化への対応等を目的としたものであり、会員の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

日本英語学会は1983年の設立ですが、当時、廣瀬前会長と同世代の私も大学院生でした。私や廣瀬前会長より下の世代の皆様は、院生になった時点で既に日本英語学会が存在していたと思いますので、英語学会が存在しなかった世界と存在している世界の両方を知っている世代としては最後の世代かも知れません。日本英語学会を良い形で今後の世代に受け渡すことができますよう、事務局メンバー共々、微力ながら力を尽くす所存ですの

で、会員の皆様には今後ともご協力をお願い申し上げる次第です。

第39回大会のお知らせ

既に学会ウェブサイトでお伝えしていますが、今秋の大会はZoomによるオンライン開催（2021年11月13日（土）・14日（日））となります。

今年度は、4件のワークショップ／スチューデント・ワークショップ、19件の研究発表、6件の特別講演と2件のシンポジウムが予定されています。特別講演の講師と題目は以下の通りです。

- ・西村義樹「認知文法との35年」
- ・廣瀬幸生「他者の思いをことばでいかに利用するか－日英語における主観の客体化研究－」
- ・時崎久夫「音韻部門で要素は移動するか」
- ・杉崎鉦司「語彙部門から生じる言語間変異：英語獲得に基づく検討」
- ・谷口忠大「記号創発ロボティクスによる実世界言語獲得の展開」
- ・中山俊秀「『周辺の』文法パターンは文法研究をどのように広げてくれるのか」

シンポジウムの内容は以下の通りです。（〔 〕内は司会者、（ ）内には講師（または指定討論者）と題目を記載しています。）

- A. 「今、英語教育を考える－英語にかかわる研究の視点から－」（公開特別）〔伊藤たかね〕（長谷川信子「句構造と機能語、主語vs.主題」、井上逸兵「いわゆる『AI時代』の英語教育」、阿部公彦「『4技能均等』の限界とその先」、白畑知彦「第二言語習得研究からの英語教育への示唆」、水口志乃扶「脱日本人の英語に向けて」）
- B. 「Headとラベル付けをめぐる」〔奥聡〕（奥聡「ラベリングとインターフェイス」、杉村美奈・小畑美貴「ラベルと形態素の具現化の関係－動詞連結を中心に－」、中村早百合「日本語の複合動詞の主要部」）

C.「タスク指向対話データが拓く発話理解と相互行為の言語研究」[吉田悦子] (川端良子・吉田悦子「共有信念の更新と構築：課題達成プロセスに特化する言語表現」、野村佑子「引用から見る課題達成談話における合意形成場面の相互行為：日英語母語話者の談話データからの一考察」、谷村緑「目的指向の多人数・異文化会話コーパスにおけるスタンスの表明と調整－人称代名詞I, we, youの相互行為上の役割－」、土屋慶子「配信型・伝播型情報共有と再帰的共通基盤：日英救急医療シミュレーションでのリーダーの発話・視線を含むマルチモーダル分析」)

本大会の詳しいスケジュールならびにプログラムにつきましては、学会HP (<http://elsj.jp/meeting/>) に掲載されます「オンライン用のスケジュール・プログラム」、「発表要旨」ならびに「ワークショッププログラム」(ダウンロード可能)をご覧ください。

◇ 大会の受付について

オンライン開催となるため、大会の受付はありません。また、参加費も徴収しません。昨年と同様、原則として、会員のみが参加できるように運営する予定です。具体的には、オンライン大会参加にあたって必要なZoom情報 (URL、ID、パスワード) を載せたファイルにパスワードをかけ、開催日1週間前を目途に学会ウェブサイトアップする予定です。このファイルを開くためのパスワードは、今年度発行のEL37: 2の裏表紙裏に記されているパスワードになります。

◇ 総会について

11月13日(土)の午後にオンラインで開催予定です。詳しくは、日本英語学会ウェブサイトに掲載予定の「オンライン用のスケジュール・プログラム」をご覧ください。

◇ 懇親会について

オンライン開催のため、懇親会は行いません。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査希望を申請した研究発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

今年度は、オンライン開催のため、大会出席の証明書等は発行いたしません。

◇ 「親と子の部屋」について

オンライン開催となったため、今年度の「親と子の部屋」の設置は行いません。

◇ 電子版のConference Handbookについて

昨年度第38回大会からは電子版のみの作成となりました。大会の1週間ほど前から11月末日までの間、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにする予定です。

なお、昨年度と同様、データ保護の観点から、掲載期間が終わるとCHIは学会ウェブサイトから削除されますので、お手元に残したい場合は、必ず掲載期間内にダウンロードしていただきますよう、お願いいたします。

第15回国際春季フォーラムのご案内

第15回国際春季フォーラムは、次の通り開催される予定です。

2022年5月14日(土)・15(日)

Zoom利用によるオンライン開催

また、第15回フォーラムよりEasyChair(発表要旨の応募をオンライン上で行うシステム)を導入することになりました。それに伴い、研究発表とワークショップの応募については、応募者自身がEasyChairに登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては、同封の案内、または、学会HP (http://elsj.jp/sf_top/) をご覧下さい。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。終身会員に関する規定等については、学会ホームページのトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会計

2021年7月3日に開催されました第82回理事会において、日本英語学会2020年度収支決算書と2021年度予算計画書が承認されました。収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの8ページから11ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

会長（退任）

2019年4月1日より2年間の任期を終えられ、廣瀬幸生氏が2021年3月31日付けで会長を退任されました。

副会長（退任）

伊藤たかね氏が2021年3月31日付けで退任されました。

評議員（退任）

大門正幸氏、佐野まさき氏、杉岡洋子氏、藤井洋子氏、山田英二氏、吉村公宏氏、以上6名の方が2021年3月31日付けで退任されました。

広報委員長（退任）

江連和章氏が2021年3月31日付けで退任されました。

大会運営委員長（退任）

木村宣美氏が2020年12月15日付けで退任されました。

学会賞委員長（退任）

加賀信広氏が2021年3月31日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

会長（就任）

金子義明氏が2021年4月1日付けで就任されました。

副会長（就任）

廣瀬幸生氏が2021年4月1日付けで就任されました。

評議員（就任）

北原久嗣氏、古賀恵介氏、高梨博子氏、谷口一美氏、野澤元氏、早瀬尚子氏、堀田優子氏、松岡幹就氏、和田尚明氏、以上9名の方が2021年4月1日付けで就任されました。

広報委員長（就任）

秋庭大悟氏が2021年4月1日付けで就任されました。

大会運営委員長（就任）

漆原朗子氏が2020年12月15日付けで就任されました。

学会賞委員長（就任）

山口治彦氏が2021年4月1日付けで就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1206名（6月10日現在）です。内訳は、学生会員34名、通常会員993名（海外会員10名を含む）、維持会員113名、終身会員51名（顧問8名を含む）、賛助会員15団体となっております。

編集委員会より

◇ 第20期編集委員会 (*English Linguistics*第39～40巻編集担当) 新任編集委員について

編集委員会規定(2009年4月1日施行)に従い、第20期編集委員会の新任委員が以下のように選出されました。新任委員の1期目の任期は2021年7月1日から2023年9月30日までです。なお、2期目委員に予定の西山國雄氏(茨城大学)から9月30日付退任の申し出がありました。2期目委員は1名欠員となりますので、10月までに新委員を補充する予定です。第19期編集委員会から引き継ぐ2期目の委員の任期は2021年10月1日から2023年9月30日までです。2021年7月から9月までの期間は、第19期編集委員会と第20期編集委員会の引き継ぎ移行期となり、分担協力してELの編集業務が行われます。

＜新任委員12名＞磯部美和氏(山梨大学)、川原功司氏(名古屋外国語大学)、菊田千春氏(同志社大学)、菅原真理子氏(同志社大学)、田中英理氏(大阪大学)、谷口一美氏(京都大学)、都築雅子氏(中京大学)、中尾千鶴氏(東京大学)、西原俊明氏(長崎大学)、野口徹氏(お茶の水女子大学)、本間伸輔氏(新潟大学)、柳朋宏氏(中部大学)

＜2期目の委員12名、欠員1名＞遠藤喜雄氏(神田外国語大学)、大室剛志氏(関西外国語大学)、岡田禎之氏(大阪大学)、小川芳樹氏(東北大学)、小野尚之氏(東北大学)、小畑美貴氏(法政大学)、Jason Ginsburg氏(大阪教育大学)、鈴木猛氏(東京学芸大学)、土橋善仁氏(中京大学)、縄田裕幸氏(島根大学)、山腰京子氏(お茶の水女子大学)、Ian Wilson氏(会津大学)

◇ *English Linguistics*第40巻からの年1号化と投稿方法のオンライン化について

第82回の理事会において、2023年度刊行の*English Linguistics* 第40巻から、年1回の刊行(年1号化)とすることが決定されました。同時に投稿方法のオンライン化を推進することも決定され、早ければ第40巻から新しい投稿システムに

移行する予定です。これらの決定の背後には、昨今の一般論文投稿数の減少傾向、投稿論文改訂期間の長期化傾向、多忙を極める編集業務、日本英語学会の財政状況等、*English Linguistics*を取り巻く諸々の状況を改善する目的があります。

年1号化と投稿方法のオンライン化への円滑な移行の実現に向けて、同理事会において編集委員会内に作業チームを設けることも決定されました。メンバーは、岡崎正男第19期編集委員長、岡田禎之第19期編集副委員長・第20期編集委員長、加賀信広理事、中村編集委員会書記、戸澤編集委員会書記、今野編集委員会書記(2021年9月30日まで)、五十嵐編集委員会書記(2021年9月30日まで)です。現在この作業チームで、投稿規定、刊行時期、投稿締め切り日、投稿方法等について検討を重ねており、今年の12月頃には具体的な内容について会員の皆様に学会HPを通してご案内できる予定です。

なお、*English Linguistics*第39巻までは、従来の投稿スケジュールと投稿方法で年2回刊行されます。第39巻1号の応募締め切りは2021年9月20日、第39巻2号の応募締め切りは2022年4月1日です。

今回の*English Linguistics*の刊行回数および投稿方法の変更につきまして、会員の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

◇ *English Linguistics*第37巻2号(2021年春号)の刊行について

EL37巻2号(春号)が刊行されました。特別企画招聘論文(Invited Article)1編、Article 1編、Notes and Discussion 1編、Review 5編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れたことをお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics*第38巻1号(2021年秋号)の刊行予定について

EL38巻1号(秋号)は2021年9月刊行予定です。Article 2編、Brief Article 3編、Notes and Discussion 1編、Review Article 1編、Review 2編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics*第38巻 2 号 (2022年 春号)
の応募論文について

2021年 4 月 1 日締め切りで投稿された一般論文の総数は14編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 8 編 (Syntax 5, Syntax/Phonology 2, Syntax/Semantics/Linguistic Typology/Cognitive Linguistics 1)、Brief Article 1 編 (Syntax/Semantics 1)、Notes and Discussion 5 編 (Syntax 4, Pragmatics/Discourse Analysis 1) でした。また、「4 ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 1 編 (Syntax)、Brief Article 1 編 (Syntax) でした。

以下の表は、査読によるReview 5 編、38巻 1 号に応募されて「4 ヶ月書き直し」と判定され38巻 2 号に再投稿された論文 2 編も含めた、38巻 2 号の審査状況です (2021年 7 月31日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	8	0	4	0	4
BA	1	0	1	0	0
N&D	5	0	1	0	4
RA	0	0	0	0	0
Review	5	3	1	1	0
4 ヶ月書き直し					
AR	1	0	1	0	0
BA	1	0	1	0	0
合計	21	3	9	1	8

なお、「特別企画2020」の事前審査 (2020年12月15日締め切り) には応募がありませんでした。

◇ *English Linguistics*第39巻 1 号 (2022年秋号)
への投稿について

上述の通り、2022年 9 月発行予定の*EL*39巻 1 号の応募締め切りは、2021年 9 月20日24時 (必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2021：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、*EL*39巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2021：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2021年12月15日です。公募案内が学会HPに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

◇ 第39回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には30件の応募があり、審査の結果19件が採用されました。

◇ 研究発表応募規定の改定について

- ・誤解を生む可能性をできるだけ排除するため、第6項内の「発表内容」という表現を「応募要旨」に変更しました。
- ・発表言語と論文題目などの言語が一致するよう、「日本語で発表を行う場合は、論文題名、氏名、所属は日本語で表記する。英語で発表を行う場合は、論文題名は英語で、氏名、所属は英語 (または原語) で表記する。」を第7項に追加しました。
- ・論文題目と著者に関する規定が必要であると判断し、「10.応募書類提出後の論文題名、著者の変更 (追加あるいは削除)、共著の場合の著者の順番の変更は一切認めない。」を第10項に追加することに伴う改定を行いました。

◇ 第14回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第14回国際春季フォーラムは、2021年 5 月 8 日、9 日にオンラインで開催されました。今年度のフォーラムでは、国内からの 3 名の研究者による招待講演 (全体講演)、13件の研究発表、4 件のポスター発表が行われました。第14回大会ではワークショップは行われませんでした。全体で83名の参加者があり、活発な議論が展開されました。今後、さらに国際的なフォーラムとして飛躍発展することが期待されます。フォー

ラムの運営を支えてくださった開催協力校の岩田彩志先生をはじめとする開催協力委員の先生方と学生の方々、前田雅子実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ 国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告

第9回国際春季フォーラムより、国際春季フォーラム優秀発表賞の審査が行われています。事前に審査希望を申請した研究発表を対象とし、応募アブストラクトの査読点による一次審査および、フォーラム当日の発表に対する二次審査により受賞が決定されます。第14回国際春季フォーラム優秀発表賞の審査の結果が6月に開催された大会運営委員会で審議され、石田崇氏と納谷亮平氏の研究発表“Why Does Contrast Allow Relational Adjectives to Be Used Predicatively?: A Qualia Structure-based Account”に佳作を授与することが決定しました。審査結果は学会ウェブサイトにて公表されています。

広報委員会より

◇ J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）でのELオープンアクセス化に向けた作業について

ELは原則として刊行の2年後にJ-SAGEにて電子ジャーナルとして公開しています。アップロードの際のテキスト情報の構成・校閲作業には多大なる時間と労力が費やされ、公開作業の遅れが生じていたことから、2019年度に公開までの作業手順の変更と簡素化が決定され、以前は執筆者に依頼していた校閲作業を広報委員会で行うこととなりました。2020年度に公開が遅れていたEL33-1～34-2の校閲作業を広報委員全員で分担して行い、2021年2月までに*English Linguistics*第34巻第2号まで公開が完了しています。今後は、担当委員により1号ずつ公開作業を進めていく予定です。また、EL33～36-1の国内執筆者に向け、公開作業の変更・簡素化に関する通知を行いました。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ EL刊行と同時の電子化について

学会ウェブサイト（www.elsj.jp）に設置されている*English Linguistics Online*に第37巻1号・2号まで公開が完了しています。なお、ダウンロードは会員に知らされたID・パスワードによって可能です。以下のURLをご参照ください。
http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

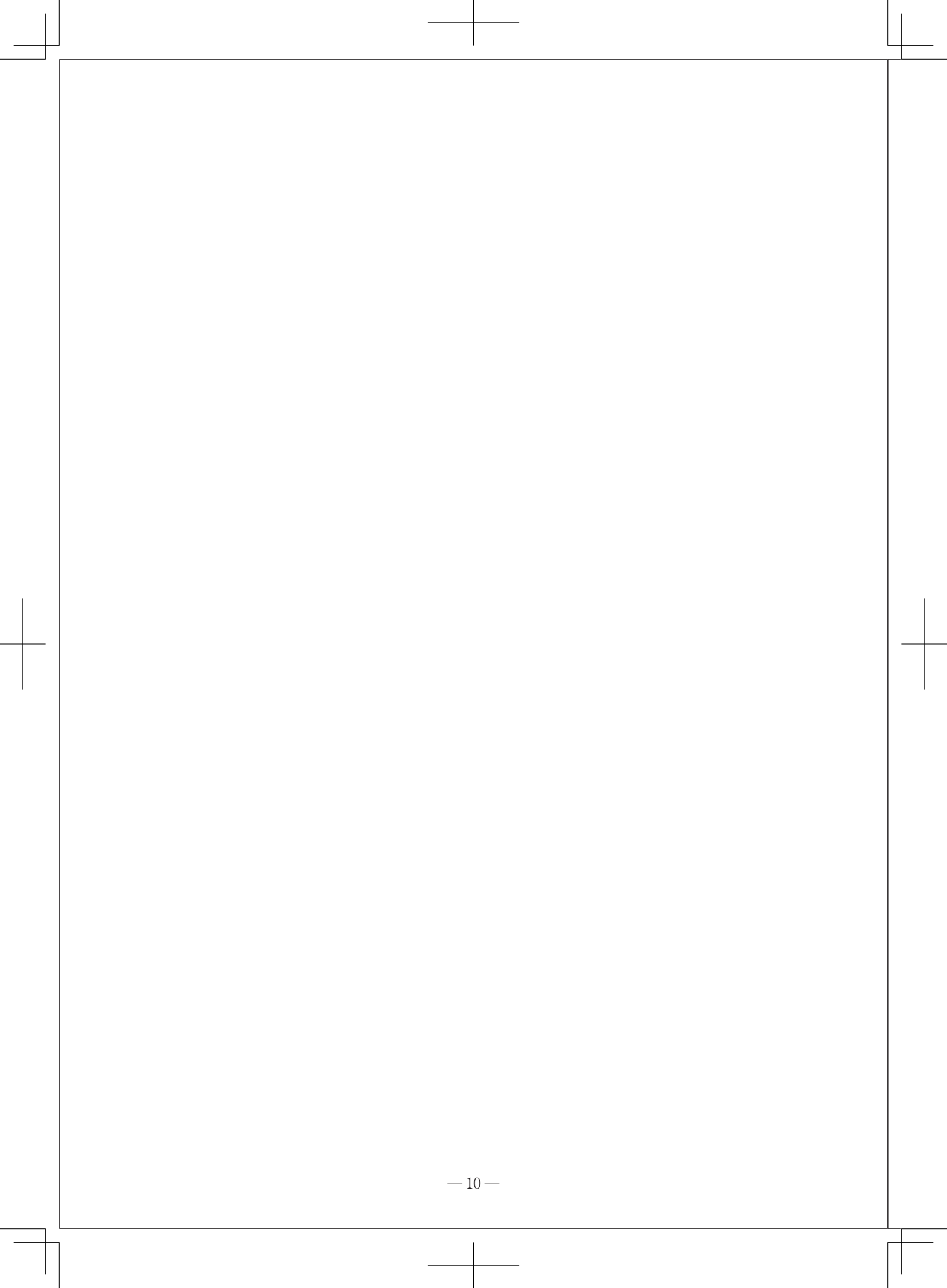
◇ 新人賞と学会賞（論文）の応募状況

2021年度新人賞と学会賞（論文）の応募は4月15日に締め切られました。新人賞と学会賞（論文）への応募はありませんでした。

◇ 学会賞（著書）の応募状況

4月15日に締め切られた2021年度学会賞（著書）には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は2件とも受理されました。審査領域は、統語論1件、第二言語習得1件です。学会賞（著書）は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催の日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2020年度会計報告



言語系学会連合について

今年度は、日本言語学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2021年度）

北原真冬（委員長、日本言語学会）、野田尚史（副委員長、日本語学会）、小林ミナ（日本語教育学会）、大室剛志（日本英語学会）、カイト由利子（全国語学教育学会）

【監査委員】

小野正樹（日本語教育学会）（2021年度）、渡辺明（日本英語学会）（任期は2021年度と2022年度）

【事務局】（任期は2021年度）

成田広樹（事務局長、日本言語学会）、萱原彩加（日本言語学会）

言語系学会連合の詳細と、連合に加盟している学会の活動予定等については、下記のウェブページをご覧ください（昨年度刷新されました）。
<https://uals.net>

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2021年6月10日現在の会員総数は1206名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。今年度の学生（継続）会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。なお、来年度も4月1日～4月25日の間を申請期間とする予定ですが、コロナ禍のために申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご相談くださいますよう、お願いいたします。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ EL, JELSへの論文投稿に関するお願い

EL, JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics*投稿規定」「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics*投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による

審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ **EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い**

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛 (elsj-info@kaitakusha.co.jp) にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ **JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い**

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい (elsj-info@kaitakusha.co.jp)。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。なお、JELS 37以降に関しましては、刊行当初からオンライン上でのフリーアクセスとしたので、再録や学術レポジトリなどへの掲載は自由となっています。

◇ **EL公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていたきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **新事務局の体制**

本年度4月1日付けの金子義明会長の就任に伴い、事務局でも次のような異動がありました。新事務局のメンバーは前事務局の方々から多くのサポートをいただきながら、それぞれの業務を引き継ぎました。これから2年間、英語学会の運営のために業務に臨む所存ですが、会員の皆様からもご協力を頂ければ幸いです。

退任

事務局長

和田尚明 (筑波大学)

(2021年4月30日付)

評議員会担当書記

田村敏広 (静岡大学)

財務・学会賞委員会・理事会担当書記

大澤 舞 (獨協大学)

広報委員会担当書記

小葉哲哉 (大阪大学)

事務局長補佐

金谷 優 (筑波大学)

(以上、2021年3月31日付)

大会運営委員会担当書記

田村敏広（静岡大学）

（2021年4月30日付）

国際春季フォーラム担当書記

小葉哲哉（大阪大学）

（2021年5月31日付）

就任

事務局長

島 越郎（東北大学）

（2021年5月1日付）

財務・学会賞委員会・理事会担当書記

北田伸一（新潟大学）

広報委員会担当書記

佐藤陽介（津田塾大学）

編集委員会担当書記

中村太一（福井大学）

編集委員会担当書記

戸澤隆広（北見工業大学）

評議員会担当書記・事務局長補佐

佐藤亮輔（高知大学）

（以上、2021年4月1日付）

大会運営委員会担当書記

菅野 悟（東京理科大学）

（2021年5月1日付）

国際春季フォーラム担当書記

佐藤陽介（津田塾大学）

（2021年6月1日付）

に伴い、会員の皆様におかれましてはご不満に思われることもあるかもしれませんが、益々忙しくなる大学業務の中でも研究活動に参加でき、また、学会業務を効率化できるというメリットもございますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

秋の第39回大会は山口大学での開催を予定しておりましたが、コロナ禍の感染が続くため、昨年度と同様、オンライン開催となりました。但し、昨年度とは異なり、今年度の大会は、研究発表以外にも、ワークショップ・スチューデントワークショップ、シンポジウム、公開特別シンポジウム、特別講演も含めたフルバージョンのオンライン開催を予定しています。大会運営委員会との連携のもと本学会HP（<http://elsj.jp/meeting/>）にてプログラムを公開します。懇親会で直接お目にかかることはできませんが、せめてオンラインでの学会活動を通じて会員の皆さんとの交流ができればと考えております。（E.S.）

編集後記

4月に前事務局より学会業務を引き継ぎましたが、コロナ禍の中で先行きが不透明な状況が続いています。このような状況においても学会の活性化を図るため、7月の理事会では大会や学会運営にオンラインを積極的に取り入れていくことが確認されました。具体的には、会員情報管理のオンライン化、研究発表の応募・採択のオンライン化、そしてEL掲載論文の投稿・採択のオンライン化を検討し、実行可能なところからオンライン化を導入していくことが決まりました。オンライン化

2021年9月20日発行

編集・発行	日本英語学会
代表者	金子 義明
発行所	日本英語学会 http://elsj.jp/

〒112-0013

東京都文京区音羽1-22-16

開拓社内

電話 (03) 5395-7101

